

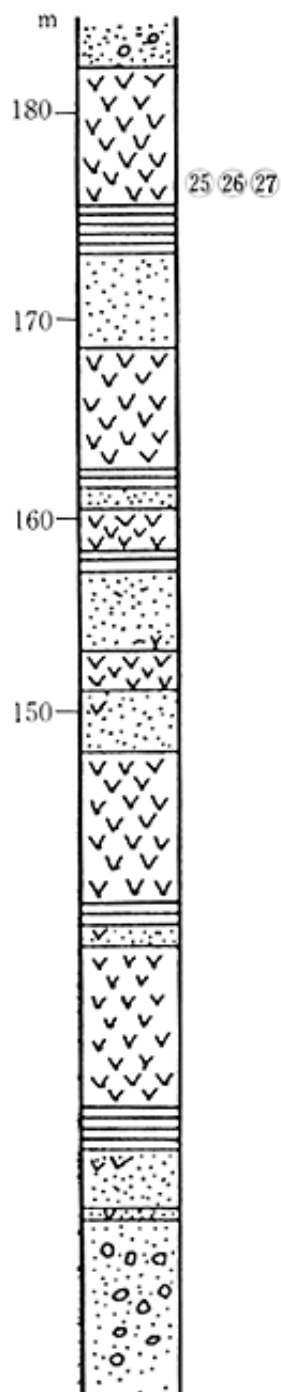
マンサク属 Hamamelis sp./ ナツツバキ属 Stewartia sp.



▲葉の上半部ののこぎり葉が特徴(マンサク属)



▲主脈を境にして、右と左で形がちがう(マンサク属)



▲発見地点、垂水区名谷町の柱状図



▲葉の上部にはのこぎり葉がある。2次脈は上方に曲がり、上の脈とつながる(ナツツバキ属)。

ナツツバキ属

葉は細長い楕円形で先端は鋭く尖り基部はくさび形である。葉の上部の縁にはのこぎり葉があり、2次脈は葉の縁り近くで上方に曲がり、上の2次脈につながり、ループをつくる。

白川累層上部に多いが、名谷付近にとくに多い。

現生のナツツバキ属は、東アジアと北アメリカ東部に約7種が分布するが、日本には3種ある。

(ツバキ科 ナツツバキ属 *Stewartia* L .)
ナツツバキ属としていたものは、*altingia*属

マンサク属

葉は卵形か、丸味をもったひし形をしており、先は三角状にとがる。基部は左右不ぞろいで、左右の葉は形と大きさが違う。上半部に波状ののこぎり葉があり、下半部にはのこぎり葉がない。2次脈の先はのこぎり葉にはいる。

白川累層上部から普通に産出する。特に最上部に多い。

(マンサク科 マンサク属 *Hamamelis* L .)



[デジタル化](#) [神戸の自然シリーズ 16](#) [神戸層群の化石を掘る](#) [メニューへ](#)